

平成26年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立秀実小学校

教育目標(めざす児童生徒像)

心豊かに たくましく 自ら高める 子どもの育成
 進んで学ぶ子 思いやりのある子
 元気な子 ふるさとを愛する子

今年度の指導の重点

確かな学力と、自ら考え自己表現する力を育てる。
 一人ひとりの良さを認め合い、支え合い、高め合う集団づくりを進める。
 健康安全に関心を持ち、心身ともにたくましく生きる力を育てる。
 ふるさとの自然や人々を愛する心と態度を育てる。
 礼儀、言葉づかいを大切にして発表力を伸ばしていく。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

<全国(小6)>
 無解答が平成25年度より非常に少なくなった。
 国語Aの正答率は県や全国の平均やや下回る。
 国語Aの「故事成語の問題」について、理解不足であり課題である。
 国語B・算数A・算数Bは、県や全国の平均を大きく上回り、特に算数Aは、全国平均も大きく上回った。
 国語A・Bの「話す・聞く能力」が県・全国より高い(A)かなり高い(B)。
 国語Bは、「言語の知識・理解・技能」が全国よりやや低い(0.6)が、他の評価の観点では全て上回っている。
 算数Aは、全ての領域で全国を大きく上回り、特に数量関係では97.4ポイントと高い。
 算数Bでも、全ての領域で全国を大きく上回った。数学的な考えの観点でも、全国を大きく上回っている。
 <具体例>
 算Aでは、割合が1より大きい場合、比較量の求め方の正答率が高い。(本校100%、県71.9%)
 算Bでは、グラフの書き方について根拠をもとに記述する問題の正答率が高い。(本校84.6%、県69.4%)
 国Aでは、故事成語(五十歩百歩、本校23.1%、県48.4% 百聞は一見にしかず、本校15.4%、県43.7%)の意味と使い方に課題がある。
 <県(中1)>
 国語では、昨年度「書くこと」「読むこと」の領域に課題があったが、今年度は、「読むこと」については県平均をやや上回った。
 社会は概ね県平均を上回っている。特に、「我が国の歴史」(領域)については、県平均をかなり上回っていた。
 全般的に、昨年同様記述式問題に弱く無回答率も高い。また、複数完答問題にも弱い。
 国語は昨年より下がった。特に「基礎」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(領域)」、「言語についての知識・理解・技能(観点)」について課題が見られた。
 数学も昨年よりかなり落ち込んでおり、「基礎・活用」ともに課題が見られた。(特に領域では「図形」、観点では「数学的な考え方」)
 理科は昨年より低く、「科学的な思考・表現」、「観察・実験の技能の観点」に課題がある。

【学習状況調査の結果】...小6

友だちの意見や話を最後まで聞ける児童がほとんどである。
 国語や算数は苦手意識のある割合が3~4割であるが、国語・数学の学習は、大切だと回答した子どもはほぼ全員である。
 家庭学習の時間は県や全国平均を上回っていて、全く学習しない子どもはいない。
 1日に30分以上読書をする子どももかなり多く、図書室や地域の図書館の利用頻度もかなり高い。
 テレビやインターネット等でニュースを「よく見る・時々見る」は全員である。
 学校のきまりをまもるでは、「あてはまる・どちらかといえばあてはまる」が全員が回答し、規範意識が高いと思える。
 家の人は、授業参観や学校行事に良く参加すると答え、学校の出来事もよく話している児童が多い。
 平日のTV・ゲームの視聴時間が2時間以上~4時間以上と回答した子どもが県・全国より多い。
 自己肯定感・将来の目標・時事問題への関心が低い。

【学習状況調査の結果】...中1

国語・数学・社会・理科は役立つと回答した子どもは多い。
 家庭学習をきちんとし、全く学習しない子どもはいない。
 昨年同様、地域の行事に参加したり近所の人に挨拶をしたりする子どもが多い。
 携帯電話の保有率はかなり低く、家庭の約束を守って使っている子どもが多い。
 毎日読書をする子どもが多く、図書室や図書館の利用頻度も高い。
 昨年より算数が好きと回答した子どもが少ない。
 昨年同様平日のTVの視聴時間が長い子どもがいる。
 昨年より自己肯定感の低い子どもが増えた。

成果と課題

中1と小6では、児童が異なるが、校内研修で自分なりに課題を捉え解き方を考える(一人学び)やお互いの考えを出し合い、自分の考えを修正したり深め合ったり高め合ったりする(仲間学び)を学習の中に取り入れて進めている事である程度無解答が少なくなったなど、ある程度の学習効果が出てきているのではないかと思う。
 学習規律を重視し、落ち着いた環境で学習に取り組むことができていて、基礎学力の定着がよい子どもが多い。
 課題から豊かな発想力を働かせたり、より深く追求したりすることは苦手だが、途中で投げ出すことなく最後まで問題を解こうとする意欲は育っている。
 記述式問題の正答率が平成25年度より高くなり、無回答率も低くなった。
 国語では、「書く・読む」の領域に課題がある。(小6・中1共に)
 中1では、全般的に各教科の知識理解・技能・思考表現の観点の正解率が低い。学年差によることが大きい。
 読書の習慣は身につけているが読む内容に偏りが見られる。
 1学年が少人数で、一人当たりの正答率のしめる割合も高くなってしまふ。その為、県平均との比較で考えるより、児童一人一人の課題を再度明確にし、個に応じた支援を引き続き行うことが大切である。

課題に対応した改善方法

計画的に反復練習を行い、コアになる知識及び技能の定着を図る。
 提示した条件を満たすようにまとめをさせる。
 自分の考えや感想が言えるようにいろいろな場を設定する。
 TV・ゲームの視聴時間が長い子どもほど学習の定着がよくない。その為、PTAと協力してノーマディア等の取り組みを継続し、平成25年度より取組を多くしたり保護者対象の講演会を計画するなど更に意識付けを図る。
 さくら文庫(学校推薦図書)読破に取り組み、様々なジャンルの本に親しませる。
 個別に明らかになった課題を保護者にも伝え、家庭と協力して取り組む。

取組の検証方法及び検証時期

毎日ドリルやプリントを宿題に出し、提出できているかチェックし指導する。
 学習のまとめを行う際、提示された条件を満たすようにノートに書くことができているかチェックし指導する。
 PTAと協力してノーマディアの取り組みを年5回行う。取組カードの提出を高め、意欲付けや実施状況を把握する。
 児童それぞれが決めたさくら文庫の目標冊数を、読書週間終了時まで読めたかどうかをチェックする。
 学びの定期便を毎月活用する。活用したことを県に報告する。
 縦割り集団を活用した「学びのフェスティバル」の回数を増やし、多様な内容について楽しく学ぶ機会を提供する。

達成目標(数値目標)

ドリルやプリントの提出率、学年末までに8割以上。
 条件を満たしたまとめをノートに書くを、2学期末までに6割以上、学年末までに8割以上。
 学年ごとにノーマディアに取り組んだ成果を学期より増やす。(年間5回の取組)
 目標冊数読破7割以上、学年末までに10割。
 全校での活用率を、引き続き10割。